

沖縄にしっかり向き合おう！

山本みはぎ

高江オスプレイパッド建設強行

国による、高江のオスプレイパッド建設が酷い形で強行されています。7月10日の参議院選挙で、辺野古の新基地建設反対を訴える伊波洋一さんが現職の島尻議員に6万票の差をつけ当選した直後の翌日、沖縄の圧倒的民意をあざ笑うかのように、高江のオスプレイパッド建設に着手しました。わずか150人余りが住む高江に、東京・千葉・神奈川・愛知・大阪、福岡から機動隊500人を派遣し、さらには機材搬入として自衛隊のCH47ヘリ2機を投入しました。自衛隊ヘリの使用を、稲田防衛相は防衛省設置法4条19号に基づく対応と説明しましたが、この条項は米軍基地の提供や使用条件の変更、返還に関する事務を防衛省の所掌と規定しているにすぎず、法的な根拠は何もありません。過去、辺野古の新基地建設反対行動に海上自衛隊が派遣されたのと同じく、反対運動への威嚇としか思われません。

機動隊による暴力的な強制的に排除で、阻止行動に参加する住民や支援者に負傷者や救急搬送される人が続出しています。また、10月17日には、現地で反対行動の指揮を執る山城平和運動センター議長が不当な方法で拘束され、さらにもう一人も逮捕されています。沖縄戦を血の水を飲んで生き延び、辺野古や高江で反対運動の先頭に立つ、87歳の島袋文子さんは、「日本のこころを大切にする党」の和田議員らから暴行を受けたと告発され、名護署への出頭命令が出されるなど弾圧が続いています。また、大阪府警から派遣された機動隊員が、反対派市民に「土人」「シナ人」という差別的な言葉を投げつけ、松井大阪知事がTwitterでそれを擁護する書き込みを行うという事態も起きています。

そもそも、高江のヘリパッド建設は、1996年、前年に起きた米兵による少女暴行事件に端を発した沖縄での大きな運動により、「沖縄の負担軽減と基地の整理縮小」をあげて、沖縄の北部やんばるにあ

る7800haもの広大な北部訓練場の一部を返還する代わりに、新たに高江周辺に6か所のヘリパッドを建設する、という日米合意

(SACO合意)で決められたものです。しかし、新たなヘリパッドは、

事故が多発し騒音をまき散らすオスプレイが着陸できるものであり、上陸訓練のための水域も提供するという、負担軽減どころか機能強化、負担の増加と言えます。「最大51%の『使用不可能』な訓練場を日本政府に返還し、限られた土地を最大限に活用する訓練場を新たに開発する」。米海兵隊が2013年にまとめた基地運用計画にはそう記されています。すでに2か所のヘリパッドは建設され、深夜にまでオスプレイが飛行しており、騒音と低周波音による被害で、住民の生活と健康が破壊されはじめています。

住民の生活ばかりではなく、「やんばるの森」は世界有数の亜熱帯の森で4000種を超える野生生物や188種の絶滅危惧種など希少な動植物が生息する地域です。ヘリパッドの建設とオスプレイの飛行は、生態系も破壊するものです。

政府は、12月までに北部訓練場を返還し、工事を完了するとしています。辺野古の埋め立て承認取り消しの裁判が行われている間に高江の工事を決着させようと目論みつつ、北部訓練場の返還で「負担軽減」がされた、とでもいうつもりでしょうか。

高江の住民の多くはヘリパッド建設に反対をしてく



無残に伐採されたやんばるの森



愛知県警への抗議行動

ます。豊かな自然に囲まれ、「普通に生活したい」というのが高江の住民の意思です。

ここでも、住



民の意思は無視され、生活や環境の破壊が起きています。愛知からも、何人も高江の座り込みに駆けつけています。少しでも現場に足を運ぶこと、愛知でできることをやる、です。

辺野古新基地建設 9. 16判決

辺野古の新基地建設を巡り、国が沖縄県の翁長知事を訴えた「違法確認訴訟」の判決が、9月16日福岡高裁那覇支部で出されました。3月、翁長知事の埋め立て承認取り消しを受けて、国が知事の承認取り消しの取り消しを求めた「代執行訴訟」で和解が成立しましたが、7月、国が訴えた判決です。この判決を出した多見谷裁判長は、和解勧告を出した裁判長であり、その中で辺野古の問題は「本来あるべき姿としては、沖縄を含めオールジャパンで最善の解決策を合意して、米国に協力を求めるべきである」と勧告していました。しかし、この勧告に従って翁長沖縄県知事は話を求めたにもかかわらず、国は一方的に提訴しました。

高裁では、県が申請した8人の証人をことごとく却下し、わずかに2回の弁論で結審しました。判決は、「国防・外交は国の専管事項だからよほどの不合理がない限り国に従え」「沖縄は台湾海峡や朝鮮半島から近く地理的優位性がある」「沖縄から海兵隊がなくなれば機動力が損なわれる」「日米間の信頼関係が損なわれる」そして、「普天間飛行場の被害を除去するには（辺野古）以外にはない」とまで言い、国の主張をそのまま認めた上に、裁判所が踏み込んでほしくないような領域まで踏み込んだまったく不当な内容です。県側は最高裁に上告しましたが、もはや三権分立などないに等しいと言わざるとえません。国は、キャンプシュワブ陸上部分の兵舎などの建設は埋め立てとは関係ないとして、裁判の行方をまたずに工事の再開も示唆しています。辺野古に対する動向も予断を許さないものがあります。

伊江島補助飛行場の強化・拡張

高江の工事が再開される中、8月には伊江島でも伊江島補助飛行場の、米空軍のCV22オスプレイと米海兵隊F35Bステルス戦闘機の強襲揚陸艦への離着陸訓練場(LHDデッキ)の増強、拡張工事が始まりました。米軍は、横田基地にCV22を10機、岩国基地にF35を16機配備し、これらの離着陸訓練場として伊江島補助飛行場を利用しようとしています。オスプレイなどのエンジンから放出される

高温に耐えられるように滑走路を増強し、F35の離着陸に伴う安全地帯(セーフティゾーン)の建設を計画しており、それによって基地の面積は、約2倍に拡張されます。伊江島は、今でも米軍基地が面積の35%も占めており、パラシュート降下訓練や重量物投下訓練などが、年間7000回も行われています。高江、辺野古とともに沖縄の基地機能強化がここでも推し進められています。

「私たちは第2の加害者」を自覚しよう

「安倍晋三さん。日本本土にお住まいのみなさん。今回の事件の「第二の加害者」は、あなたたちです。しっかり、沖縄に向き合っていただけませんか。(中略)生きる尊厳と生きる時間が、軍隊によって否定される。命を奪うことが正当化される。こんなばかばかしい社会を、誰が作ったの。このような問いをもって日々を過ごし、深く考えれば考えるほど、私に責任がある、私が当事者だという思いが、日に日に増していきます。」

6月19日、20歳の女性が元米軍属によって殺害遺棄された事件に対して開かれた県民集会での、シールズ琉球の玉城愛さんのスピーチの一部です。玉城さんは「私」という言葉で自分自身の責任をいっていますが、問われるべきは圧倒的多数の本土に住む「私」だと今更ながらに思います。

そして、このことは今に始まったことではなく、日本が、主権のある独立した琉球王国を強制併合したときから連綿として続いていることなのだと思います。沖縄戦で本土防衛の捨て石とされ、軍民合わせて20万人以上の人々が犠牲になり、戦後も本土の独立と引き換えにアメリカの施政権下におかれ、銃剣とブルドーザーによって基地建設が強行されたことは広く知られていることです。1944年に米海軍省作戦本部が作成した「民事ハンドブック」には「日本人は琉球人を同等と見なしていない。様々な方法で差別している。日本と琉球には政治的に利用し得る軋轢がある」として、日本本土の差別意識を利用しています。高江での機動隊員が「土人」「シナ人」と罵声を浴びせたのも、こうした沖縄に対する差別意識が根底にあるのではないかと思います。

沖縄は圧倒的な民意で辺野古の新基地建設反対を訴え続けています。翁長沖縄県知事の誕生、国政選挙での辺野古新基地建設反対の候補の当選、最新の世論調査でも辺野古新基地に反対が76%、翁長知事を支持するが83%に上っています。「沖縄のことは

高江への行き方

沖縄で決める」という自己決定権が、この差別構造の中で、日本政府は思考停止をし、本土に住む多くの人たちは無関心を装っている現実の中で、実現されないということです。

言うまでもなく、米軍駐留は日米安保条約に基づいています。内閣府による世論調査によると、安保条約を容認する数字が83%にも上っています。つまり、米軍が駐留することで「日本の平和や安全が守られている」という圧倒的な本土の住民の認識が、自覚的であるか否かは別にして「だから沖縄に基地があるのは仕方がない」と沖縄の基地の存在を容認し、無関心を装うということになるのではないのでしょうか。

しかし、2015年、1996年のSACO合意の時のモントゲル元駐日大使は、普天間の「移設」について、「我々は沖縄と言っていない。基地をどこに配置するかを決めるのは日本政府である」と言い、第2次安倍内閣の中谷元防衛大臣は「分散しようと思えば九州でも分散できる。理解してくれる自治体があれば移転できる」と、沖縄の地理的な優位性を否定しています。

今安倍政権は、中国に対しては尖閣問題や軍事拡張の問題で、北朝鮮に対しては、拉致問題や核・ミサイル問題で排外主義や脅威を煽り、東アジアの緊張を高め、安保法制（戦争法）の施行や憲法改悪の動きを強めています。沖縄の基地の問題はそれらと連動して進められています。基地軍隊の存在自体、「普通の生活」を奪い、破壊し、戦争につながるものだという事を、より多くの人たちが自覚し行動することが求められていると思います。そのために、微力でも動きましょう。

- 1) レンタカー
- 2) バス

那覇から名護までバスで行き、その先。

名護-高江間のバス（73番川田線）

高江（共同店）と名護バスターミナルを結び1日3便のバスです。

▼名護 BT 発→高江行き

平日 5:50/ 14:25/ 17:15
土日祝 5:55/ 14:20/ 17:30

▼高江発→名護 BT 行き

平日 7:05/ 15:45/ 18:45
土日祝 7:15/ 15:40/ 18:55

※最新情報は出発前に各自でチェック

名護バスターミナル TEL 0980-52-2504

バスナビ沖縄

<http://www.busnavi-okinawa.com/map/>

バスまっぴ沖縄

<http://www.kotsu-okinawa.org/>

- 3) 沖縄平和市民連絡会の送迎

那覇インター前バス停から原則8時に出発
必ず長嶺（090-2712-6486）

城間（080-1782-6598）へ事前に連絡

※念のため平和市民連絡会に確認しましょう

- 4) カンパの送り先

県民会議オスプレイパッド建設阻止高江現地行動実行委員会 代表山城博治

口座番号：琉球銀行大宮支店

普通 404-607754



口座名 間島孝彦

座り込みおすすめグッズ

帽子
HAT

何はなくとも帽子!! 座り込みテントはありますが、道路の照り返しも厳しいです。日射病予防にも。

てめぐい
WASHCLOTH

汗拭き、日焼け防止、さまざまな用途に役立てて便利! もちろん高江でぬぐいをどうぞ。

虫よけスプレー
BUG SPRAY

やっぱり蚊はいる! アロマオイルなどで自作してみよう! 簡単です。

飲み物
DRINK

水分補給は必要です! ボトルとティーバッグを持参していけば経済的。テントでお湯は沸かせます。

筆記用具
WRITING UTENSILS

座り込み中に書いたお話をメモったり、座り込み日記をつけたり、何かと必要!

常備薬
MEDICINES

高江に薬局は無い! 頭痛薬、風邪薬など可能性のある薬は持参しましょう。

島ぞうり
BEACH SANDAL

みんな島ぞうりなので、つい欲しくなります。底に名前を書いておくことで履き間違えません。

レイングッズ
RAIN GOODS

高江は森の中にあるので、湿度が高く天候がよく変わります。数日間いるようなら、カッパと折りたたみ傘は必須。

はおりもの
FABRIC

やんばるの森は寒暖の差も激しいです。もう1枚、余分に持って行くといいですよ。